



令和2年(2020年)10月9日発行

札幌市立北陽中学校

学校だより 第5号

### 修学旅行を振り返って 3年1組 萱原 拓実

修学旅行の思い出は、トラピスチヌ修道院に入ると、別の世界に来たような感覚になったことです。そこでは、植木が一つ一つ丁寧に手入れされていて、整った空間が広がっていました。何十年も前からたずむ像からは、エネルギーを感じました。修道院の壁の煉瓦の積み方に、フランス積みとイギリス積みの二種類があったことを知り驚きました。また、二日目の自主研修で二十間坂を勢いよく駆け上がったことも思い出です。天気予報では、雨が降ると聞いていたので不安な気持ちでしたが、なんとか晴れてくれたので、二十間坂からの景色を楽しむことができました。自主研修後の温泉は、温かくて心が休まりました。

修学旅行での反省は、まず、総務係の仕事を前もってできなかったことです。点呼を素早くできなくて、迷惑をかけてしまったことが何度かありました。先を見通して行動していくことの大切さを知りました。自主研修では、班で意見が分かれたときに、その調節をすることができました。しかし、後半は班員全員の体力がなくなってしまい、班のまとまりや行動力があまりありませんでした。そのため、余った時間を有効活用することができませんでした。こういう時に総務係として元気の出る言葉をかけたり、時間が余った時に何をするかまで考えたりしていると良かったと思います。また、人によってさまざまな意見があり、対立しそうになることや、少しマナーが悪かったこともあります。どちらもお互いの気持ちや状況を考えて行動すれば、解決できることだと思います。自立していくことが目的の修学旅行ですから、きちんと自律することが大切だと思いました。全力で自分の係の仕事に取り組むことができたと思います。帰りのバスで、隼磨くんが僕に「いい人だね」と言ってくれたことは一番うれしかったです。

最初は仙台に行く予定だった修学旅行が、新型コロナウイルスの影響で函館に行くことになってしまいました。道外旅行が楽しみだったので、かなり残念でした。しかし、函館の綺麗な夜景を見たり、歴史的な建造物を見たり、白老のウポポイでアイヌのことについて学んだりすることができました。北海道の文化に対する興味が深まりました。三日間もある修学旅行を充実した時間にするには、細かなところまで調べて作った計画と、全員の努力が欠かせないと分かりました。また、自主研修で十時間近く班行動をしてみて、改めて周りの人の気持ちを考えて行動することや、譲り合うこと、切り替えを意識して心に余裕をもつことが大切だと思いました。修学旅行で学んだ大切なことを忘れずに、生活していきたいと思います。

### 蒼天を目指して 3年1組担任 宮崎 亜未

学年目標の「雲外蒼天」には、「困難を乗り越え、努力して克服すれば快い青空が望める。学年で団結し、大きな空へ。」という意味があります。1年次の「大樹」、2年次の「満開」に続くこの目標は、成長した3学年がさらなる広い世界へ羽ばたくことを意識して設定されました。植物が生長し花を咲かせるためには、日光や水、肥料が欠かせません。同じように、人間の心が成長するためにも、何かが必要となります。

今回、新型コロナウイルス感染症の流行が収まらない中、修学旅行を実施しました。最優先すべきは感染症の予防であり、そのため、生徒たちには随分窮屈な思いもさせました。最初は行動の意味を理解できずにいた生徒たちも、徐々にその意図を理解し、自分たちで考え、その場にふさわしい行動をとることができるようになりました。臨時休校が明け、少ない準備期間と数多い制約の中、実行委員会の生徒たちは学年レクの準備を行いました。提案しては却下され、再提案しては訂正されと、実現にたどり着くまでの道程は、文字通り「困難」であったと思います。しかし、彼らの工夫と努力の甲斐もあり、当日は学年全員で盛り上がり、楽しむことができました。学年レクが成功し、「学年で団結」という学年目標を見事に達成することができたのは、ひとえに「みんな楽しんでみたい」「思い出を作りたい」という、生徒たちの仲間を思う心があったからだと思います。そしてこの心こそが、旅行中の彼らの行動を変え、さらに大きく成長させたのだと思います。

世の中全体が感染症の予防対策で揺れ動いている今こそ、「お互い様」「お陰様」という心が必要であると思います。無事に修学旅行から帰着することができたのは、生徒たちの心にお互いを許し合い、認め合う心が育っていたからにはほかなりません。それは日頃からご家庭の中で生まれ、また、これまでの学校という集団生活の中で育まれてきたものだと思います。これから3年生は、自らの進路目標実現に向け、よりいっそう学習に励んでいくこととなります。時には辛くなったり、投げ出したくなったりすることがあるかもしれませんが。そんなときは、「困難を乗り越え、努力して克服すれば快い青空が望める」ことを信じて、仲間と互いに助け合い、支え合ってほしいと思います。

### 宿泊学習を振り返って 2年4組 石村 海斗

僕は宿泊学習に行けたことが本当に良かったです。今年はコロナの影響で、たくさんの行事が中止になりました。その中で、宿泊学習も無くなってしまうのではないかと心配していました。しかし、今回の宿泊学習は延期です。良かったです。むしろこのようなことがあったからこそ「精一杯楽しもう」とも思えました。

一方、僕は最初、あまり乗り気ではありませんでした。学年協の仕事や作文を考えることなど、とても仕事が多かったです。しかし、その仕事も仲間と協力し、スムーズに進めることができました。そして、当日、結団式、出発式と進めていき、きちんと行うことができたので、今までの準備が無駄ではなかったんだと思いました。また、しおりやレク、点検など、各係がこの日のために準備してくれていたことを知り、二百人近くがみんなを楽しくしようと、この宿泊学習を成功させようとしていることがとても嬉しかったです。僕はそこで「団結」の素晴らしさを知りました。

僕たちの長い準備から始まった宿泊学習は、みんなが楽しく思えるものになり、学級、学年をワンランクアップさせるものになりました。僕は、この宿泊学習は成功だと思います。

## 2年生の成長を感じて 2年1組担任 加藤 晶代

宿泊学習は、コロナの影響で6月実施の予定が9月に延期になり、もしかしたら9月にも実施できないのではと不安の中、準備は始まりました。

誰か1人が頑張るのではなく、生徒全員が1人1人自分の役割をもち、活動していました。

総務係は各班の班長として、班員をまとめていました。特に小樽の自主研修では班員に気を配り、時間を考えて、行動してくれました。

生活係はきまりを、みんなが楽しく過ごせるよう自分たちで考え示してくれました。

保健係は当日、健康チェックを行ってくれました。今回の宿泊学習では特にこの仕事が大切になっていました。

文化係はクラス全員の分のしおりをひとつずつ折り、製本してくれました。

体育係はバスの中や体育館でのレクを、みんなが楽しめるようにと企画し、運営してくれました。

学習係は自主研修の時、みんなが迷子にならないよう、困らないよう自主研修の話をもとめてくれました。

ホテルの室長は常に時間を意識して、室員に呼びかけてくれました。

家の都合で参加出来なかった生徒が体育委員ではないのに、レクの準備をずっと手伝ってくれていたようです。

そんな全員の気持ちがあって、宿泊学習はたくさんの笑顔と思い出があり、大きな事故・けが・病気もなく無事終わったような気がします。

まわりのことを考え、自分が何をしなければならないのかを考えている、着実に成長している2年生を見るのができた幸せな2日間でした。

これからたくさんの経験の中から、何かを感じ、また大きく成長して欲しいと願っています。

## 野外での勉強の大切さ 1年2組 中村夢那

私はこの野外学習の大切さを知りました。

普段学校で勉強をしている時は、本、辞書などを使用して調べていますが、野外での勉強は分からない、と思ったことはすぐその場で調べることができるからです。今の時代は、分からないところはインターネットで調べるといのが、最近あたりまえになってきています。ですが、インターネットに頼りすぎてもあまり勉強にならないと思ったので、その場で解決する大切さを今回の野外学習で気づくことができました。

初めて二組のみんなとの野外学習だったのでとっても楽しかったです。そして、友達とする勉強の大切さにも気づけたのでよかったです。来年の宿泊学習に、今回学んだことを生かしつつ行動したいと思います。

## 野外学習を終えて 1年1組担任 宮前 順一

9月3日(木)、晴れ時々霧雨。1学年は円山動物園と札幌オリンピックミュージアムに行ってきました。この学年のテーマは「自治」です。自分たちで自分たちの学年をよりよくしていくことや、学校行事も自分たちの力で成功させるということ意識して学校生活を送っています。学習道具の忘れものが多いと感じた学級は、総務係(班長)が自らの判断で会議を開き、どうすれば忘れものが減るかを話し合い、解決策を考え実施します。そのような活動を通して少しずつ「自治」の意識が育まれてきました。

旅行的行事では普段の生活で頑張ってきたことが「答え」となって表れます。事前学習では先生に頼らず、自分たちで行事を成功させようという頑張りが見られました。学級の学習係長が中心となり、「野外学習では何を学び、最終的にはどのように学習の成果を発表するのか」を学級に伝えていました。困ったことがあれば、自分の班の学習係→学級の学習係長→学年の学習委員長→担当の先生という順番で質問するのですが、担当の先生まで質問が上がることはほとんどありませんでした。

野外学習当日、「あいさつ」「時間への意識」「リーダーの発信力」「集団を優先させる意識」など、この学年が取り組んできたことがどのように野外学習で発揮されるのかが試されました。朝の集合は全員が集合時間に間に合い、幸先のいいスタートとなりました。円山動物園、札幌オリンピックミュージアムでは各班が自分たちの学習課題について調べました。事前学習で立てた計画通りに施設内を回ります。集合時間を気にしながら班長を中心に声を掛け合い、充実した調べ学習となりました。久しぶりに生で見るゾウや、スキージャンプ体験のアトラクションなどに興奮しながらも、時間を意識して行動ができていました。もちろん100点とはいきませんでした。所々で発生する小さな失敗を次に生かし、集団の力が高まっていく様子が見られました。

事後学習では、時間がない中、全ての班が自主的に放課後残って発表の練習をしていました。当日は個性溢れる発表を披露していました。

この学年のスローガンは「クレヨン」です。全員が様々な個性を発揮することが目標となっています。しかし個性と同じくらい社会性も大切です。両方をバランスよく高めて学年のスローガンを達成してほしいと願っています。気付けばもう10月。折り返し地点です。この学年の生徒が残り半年でどのように成長していくのか楽しみです。保護者の皆様のご理解とご協力があるおかげで、我々も思い切って教育活動を行うことができています。今後ともよろしく願いいたします。